

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800652		
法人名	医療法人 さくら会		
事業所名	グループホーム さくらの家		
所在地	栃木県小山市卒島 98		
自己評価作成日	平成30年8月10日	評価結果市町村受理日	平成30年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成30年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「やさしい介護とやさしい医療」を基本に事業所独自で「一人ひとりを大切にゆったりとした生活を提供します。」という理念を掲げ、個々の入居者様を支援させていただいております。「認知症」であっても1人の人として尊重し、その人の視点や立場にたって理解し、ケアを行う事を心がけています。ご家族様へは職員と共に入居者様を介護させていただく者同士とお考えいただけるように常にご意見を伺い、情報共有し、介護に関わっていただけるように支援させていただいております。身体面では併設クリニックから医師・看護師の訪問及び必要時のクリニック受診・隣接する薬局の内服薬管理を実施。本人の身体状況について常に情報交換を行ない、変化があった時に速やかに連絡を取り合っています。他、地域交流の場である「生きいきふれあい事業」に参加し、入居者様と地域住民とのなじみの関係を崩さぬ努力と認知症の理解の場作りを行ってます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、田園風景の広がる長閑な地域にある。医療法人が母体であり、隣接するクリニックの訪問診療の利用も可能である。クリニックには内科、整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科があり、主治医との連携も取りやすく通院もスムーズである。同法人には老人保健施設があり必要に応じ紹介も行っている。利用者は介護度も上がり、重度化が進み、思いを表出することが困難な方も多いが、一人ひとりとじっくり向き合い、衰える面が増す中でも、個々の思いや身体状況を考慮しつつ、できることを取り入れ、安心安全に配慮した暮らしができるよう支援している。職員はコミュニケーションを重視し、一人ひとりを大切に、心に寄り添うケアを心掛けている。「職員が笑顔で楽しく仕事をすれば利用者も笑顔になれるのではないか」との思いから、職員はいつも笑顔を絶やさず、楽しく明るい雰囲気作りにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人を大切にゆったりとした生活を提供します」を理念とし、1人1人と深く関わり、その人らしさを大切にしながら支援させていただいている。	職員は理念を念頭に、利用者の話を傾聴することで信頼関係の構築に努め、個々の思いを大切に、一人ひとりのペースに合わせ支援することを日々心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は困難な面があるが、週1回行なわれている生きいきふれあい事業なるべく参加し地域との関わりを持っている。	毎週開催される市の介護予防事業に参加している。体操や輪投げなどのゲーム、踊り、歌など様々なメニューがあり、地域住民との交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生きいきふれあい事業や当施設で開かれる地域交流会に入居者様と共に参加したり、運営推進会議にて話をさせていただいたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4火曜日に実施し、参加者に事業所の取り組み内容や事故報告等をお伝えし、参加者からの意見を参考にサービス向上に努めている。	民生委員や地域包括支援センター職員、近所の方や薬局の薬剤師などが参加し、活動の様子や利用者の状況など、現状報告を行っている。和気藹々とした雰囲気の中、活発に意見交換を行い、アイデアや気付きを共有しながら、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所とは随時連絡を取っており、包括支援センターとも定期的に連絡を取っている。	市主催の地域密着型サービス事業者集団指導への参加や窓口への手続き時のほか、市担当職員とは必要に応じ日頃から連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や職員会議で身体拘束について資料を用い話し合い、学ぶ機会を持っている。玄関はオートロックの為、施錠せざるを得ない。居室ドアは中からも外からも開くカギになっているため、自分で鍵をかけられる方の施錠は本人に任せている。	一人ひとりとじっくり向き合い、個々の性格や生活リズムを把握することで、安全に配慮しつつ拘束のないケアに取り組んでいる。防犯や安全面から玄関の施錠はしているが、外出や買い物、散歩など、希望があれば職員が付き添い、自由に戸外に出られるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回行っている研修や職員会議で話し合い、学ぶ機会を持ち、職員全員が虐待防止について常に意識している。		

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用された方はおりませんが、以前、いらっしゃった事もあり、法人内勉強会を通じて学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約の時に契約書及び重要事項説明書をもとに説明を行っている。その時に不安や疑問に思う事についての説明を行うよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議や運営推進会議の場で現状を伝え、それに対する意見及び要望をうかがっている。必要に応じて、運営にも反映させている。	毎月の便りで利用者の様子を伝え、利用料の支払い等の来訪時には現状を見てもらうなど、家族と話す機会を設け、意見を聞いている。外部評価や法人の家族アンケートなど、様々な形で意見や要望を表す機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第4木曜日に職員会議を開いている。その時に意見や提案を聞き、それをもとに運営に反映させている。その会議には、グループホームの代表者や管理者だけでなく、他の部署長にも参加していただき、職員との意見交換の場となっている。	事業所内での職員会議、法人役職出席の会議での話し合い、個別面談等、管理者等と話す機会を設けている。会議や面談に限らず、日頃から話しやすい関係作りに努め、日々の業務内で気付いたことはその都度話し合い、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議にて要望を聞いていただいている。必要に応じて職員個々の面談にて、詳しく聞き取りしながら、状況の把握、環境改善に向けて調整に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者による報告及び必要あればの個人面談にて一人一人の実際と力量を把握している。研修を受ける機会の確保や勤務表の調整なども協力的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	暑気払いや法人祭り、忘年会にて他部署との交流を法人内で図っている。また、相談員等交流会や地域の会議などに出向いていき、多くの情報を収集する機会を得ている。		

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の契約時にはご家族からの要望を伺っている。入居と同時に入居者様の状態を観察させていただきながら、要望等に耳を傾け、安心して過ごしていただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前契約時はもちろんの事、1か月ほど経過した時にも担当者会議を開き、家族の困りごとなどをうかがっている。気楽に相談できる関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	選択肢を狭めることなく情報提供及び共有しながら、必要な支援を見極めている。ご家族にも必要時には蜜に連絡を取り、常に近況をお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にとって話しやすい環境・時間を作っている。常に本人とはコミュニケーションを取り、ご本人の要望をかなえるよう寄り添いながら支援させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に情報を共有する事が出来るよう連絡を取っている。電話や来訪時の情報提供及び定期報告書などの記録での報告も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊は自由に行ってもらっている。施設への来訪も受け入れている。地域交流の場にも参加し関係が途切れないよう支援に努めている。	市の介護予防事業参加時に近所の方など馴染みの人に会う機会がある。自宅への帰宅や外泊等は身体状況により難しくなっているが、正月など、親族の来訪の際は、居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人で居室で過ごしたい方は適度な時間を過ごしていただき、ある程度したら声掛けを行っている。普段の生活では主にリビングや食堂にて過ごしていただき、職員が間に入り、レクレーション実施やコミュニケーションを図っている。		

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族からの連絡・相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の意見・意向を確認する時間を設けている。ご家族の意見・意向も担当者会議を通じて把握し、ご本人の意見も伝えて、その意向が伝わるよう支援している。	利用開始時に生活歴や意向を聞き取っている。食後や風呂上がりのリラックスした時など、一人ひとりの表情や話しやすいタイミングを見て声かけし、傾聴している。不意に出た言葉や些細な変化を見逃さず、思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との普段の会話や家族からの情報にて把握している。また、職員会議や普段の申し送り等で職員同士が知り得た情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックにて日々の状態を把握。1日の過ごし方や身体状態については日々の職員間の申し送りやご本人との日常会話、状態観察などで確認し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にてケースカンファレンスを行い、その意見をもとにご家族との担当者会議にて、現状をお伝えし、意見や要望も加えて、介護計画を作成している。	家族の思いや意見を取り入れつつ、事業所として対応できる範囲を考慮し、本人と関係者が納得した内容で、現状に即した介護計画を作成している。定期的な見直しの他、必要に応じその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録や申し送り書、日誌に気づきや工夫を記入。職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、試行錯誤しながら臨機応変に対応している。		

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小山市が行っている「生きいきふれあい事業」に参加し、地域の方々と触れ合ったり、法人が開催するお祭りに参加する等、一人一人が生活を楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックの医師が主治医となっており、月2回の訪問診療を受けている。訪問診療ではご本人やご家族の希望、体調の変化を医師に伝え、その指導の下、健康管理に留意している。	訪問診療と職員付き添いの通院が可能となるため、併設のクリニックへの受診を希望する方が多い。受診時の様子など定期的な報告のほか、服薬の変更等の医療情報について都度連絡し、家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療の前には担当看護師が来訪し、1人ひとりの情報を職員から聞き、把握してからの訪問となるため、適切に診察が行えている。また、体調に変化があった時は看護師に連絡し、医師の指示を仰ぎ、適切な支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他の医療機関への入院となるが、入院の際には医療機関と連絡を取り、情報交換を行い、早期退院に向けての調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期のあり方について話し合い、事業所で出来る事を十分に説明し、ご理解いただきながら方針を検討している。また、入居継続が難しくなった時には他の施設に移れるようご家族と話し合い、配慮している。	利用開始時に意向を確認した上で、事業所で対応できることを説明し、重度化や緊急時の対応について家族と話し合っている。クリニックの訪問診療が24時間体制でなく環境が整わないため、現在看取りは行っていないが、併設の老人保健施設の紹介などを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には医師へのオンコールにて指示を受け、応急手当や救急搬送を行っているが、訓練は定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年に2回実施している。また運営推進会議を通じ、地域の方への協力を呼び掛けている。	近所の住民や企業の協力を得られるよう、日頃から話し合い協力関係を築いている。震災時の経験を活かし、災害時の行動など実情に即したマニュアルを作成し、具体的な対応を考えている。	

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者一人ひとりを良く理解し、丁寧な言葉遣いや対応を行っている。	個人の生活歴に合わせた呼び名や方言での言葉かけなど、本人が一番馴染みがあり安心できる対応を心掛けている。目線を合わせ丁寧な声掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の話をよく聞き、希望や自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活ペースを考慮しながら希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定ができる方に関しては、本人らしいおしゃれができるようにアドバイスさせていただいている。困難な方に関してはその時のご本人の状態に合わせて、職員側が配慮させていただく時もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲でテーブルを拭いていただいたり、お皿を洗ったりしていただいている方もいる。メニューに関してはイベント食や出前などを考え、提供している。お楽しみメニューも取り入れている。	宅配の食材と調理済み冷凍食材を併用している。ペースト食の方が多く中でも行事食や季節の食材を取り入れ、食事を楽しめるよう工夫している。寿司などの出前も取り入れている。利用者の重度化が進み、常食の外食は難しい現状にある。	利用者の重度化が進み介護度に差がある現状ではあるが、残存機能の高い方には個別での外食や誕生日に特別食を取り入れるなど、機能維持や意欲向上に繋がるよう、個々の嗜好や思いを活かした取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員会議で情報交換、統一をし、実践に繋げている。日々の個々の摂取状況に関しては、摂取力や量、好み、水分量を確認、観察している。足りない時には介助や補食する等して、栄養バランスを崩すことなく取ることが出来るように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後の口腔ケア及び義歯洗浄を行っている。口腔内を清潔に保てるよう歯科受診を定期的に行い治療や嚥下評価を医師・衛生士よりご指導いただいている。		

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導を行っている。入居者様の排泄パターンや習慣を把握しているが、自立は困難な方もいる状況である。	個々の身体状況に合わせた排泄の姿勢や、消化吸収のよいペースト食への切り替えなど、食事の見直しも含め、自立した排泄ができるよう支援している。失敗時にもシャワー浴や清拭介助を行い、気持ちよく過ごせるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無、質の確認、リズムの確認を行い、水分摂取量の調整や運動を促している。内服薬に頼っているのが現状である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴時間を設けている。回数は職員が決めているが、個々の入浴時間は入居者の希望に添うように心がけている。	週2回、午後の時間帯を基本に、個々のペースに合わせて入浴を支援している。必要に応じシャワー浴も行っている。残存機能を活かし自立している方は見守り、介助が必要なところを支援している。拒否のある方も誘導や言葉かけの工夫により、自ら入ってもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じて休息したりする等、入眠スタイルに合わせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解している。協力薬局と連携し、分包したり薬の形態を変えるなどしてうまく内服できるように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホーム独自のレクリエーションや併設デイケアとの交流の場を設けている。他、外食、出前なども行っている。出来る方には日々のカレンダーめくりや家事などをご協力いただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の生きいきふれあい事業に参加し、交流の場が持てるよう支援している。心身の状態から外出困難な方もいるが、ご家族にはご理解いただいている。その方々は施設内で過ごす事がほとんどである。	個々の希望に添い、参加できる方は毎週開催される市の介護予防事業に出かけている。年に数回は道の駅やバラ園などへ出かけている。外出が困難な方も、外気浴をしたり、窓から見える景色を眺め季節の移ろいを楽しむなど、気分転換ができるよう配慮している。	

グループホームさくらの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様にご依頼し、お小遣いという形で施設で預かっているお金がある。必要に応じて個々のものを購入させていただくこともある。わかる方に関しては、外出時、買いたい物を購入できるよう支援させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えにより、必要時には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が入居者様にとって居心地よく過ごせる場所になるよう季節感のある作品を共に作成し、展示している。また、掃除は毎日、場所を決めて行い、清潔な空間を保っている。	中庭を囲むように配された回廊式の廊下は見通しよく明るい。ダイニングテーブルやリビングのソファなど思い思いの場所で自由にくつろげるよう支援している。華美な装飾や刺激になるような物は置かず、閑静で心穏やかに過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じて家具の配置や席替えを行い、それぞれが快適に過ごせるように心がけている。また自室においても自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で過ごしていた時の環境との違和感がないよう使い慣れた家具や大切なものを居室に置き、ご自分の部屋として心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	ベッドや和布団、箆笥、仏壇、テレビや冷蔵庫等の家電、タバコなどの嗜好品も安全に配慮しつつ、使い慣れた物や馴染みの品の持ち込みは自由である。本人の心身や生活に支障をきたすことのないよう、安全安心に配慮した部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の現在出来る能力を活かして、現状維持のまま生活を継続することができるよう、職員全体で情報を共有し、統一されたケアができるよう心がけている。		